

都立立川短大 石毛フミ子
○岡田 陽子
桜美林短大 菅原由紀子

1. 第1報においてギャザ効果に關係の深い要因について検討し、たて方向のギャザとよこ方向の剛軟度との高い相関を得た。今回は布目の方向に着眼し、よこ、ななめ方向について実験を行ない方向別によるシルウエットのちがいについて検討した。

2. 実験材料 第1報において用いた18種の布の中から特徴的な布5種を選んだ。

実験項目(1)ギャザ分量を1.5倍にしたシンプルなモデルによるシルウエットの測定。

(2)ギャザ分量を1.5倍にしたギャザスカート1/2大のモデルによるシルウエットの測定。

(3)(1)(2)それぞれについての経過日数によるシルウエットの測定。

3. ギャザスカート1/2大のモデルにおいて、よこ方向にギャザをほどこしたものが最大の広がりを示した。たて、よこ、ななめ間にシルウエットの差が見られ、上から15cmのあたりでたて、よこ方向のギャザのシルウエットは大きな広がりを持ち、20cmの所で鉛直線に漸近する傾向を示すがななめ方向では、15cmのあたりではよこ方向との広がり差は他の部位におけるよりも大きく、直線的な広がり示した。5週経過後のシルウエットの変化については、方向別による差異は顕著には見られなかった。